

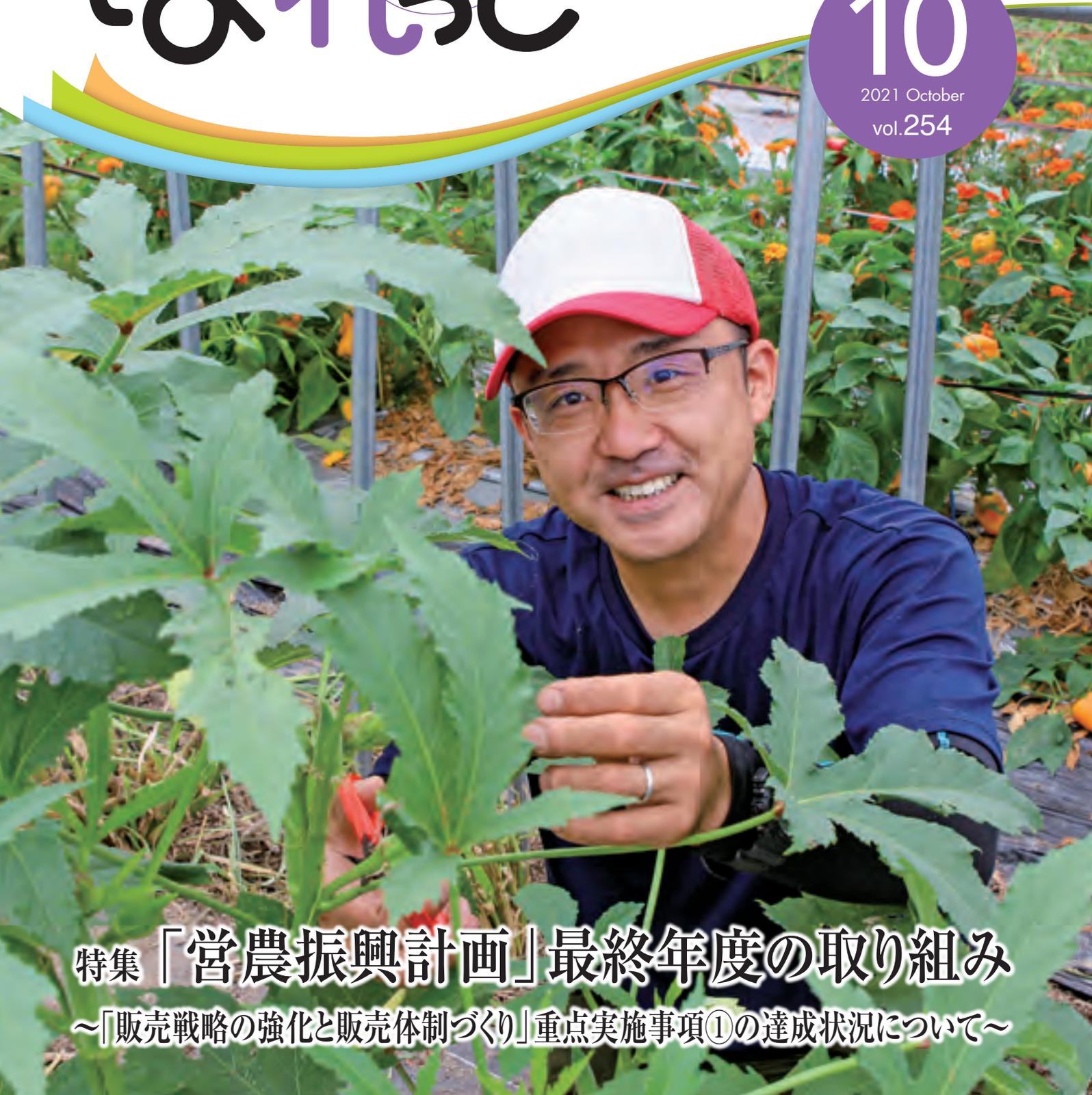


ぱれっと

Palette



10
2021 October
vol.254



特集「営農振興計画」最終年度の取り組み ～「販売戦略の強化と販売体制づくり」重点実施事項①の達成状況について～

農を担う
有機無農薬野菜農家 田邊 耕治 さん
平山地区…………… 10ページ

今月の折り込み 令和4年作付用 水稻種子予約注文申込書 ほか
令和4年産水稻用 土づくり肥料予約注文書

「営農振興計画」最終年度の取り組み

「販売戦略の強化と販売体制づくり」

重点実施事項①の達成状況について

令和元年からの営農振興計画の基本方針と行動計画に沿って進めた取り組みを紹介いたします。

※実績値は令和2年度のものであります。

販売戦略の強化と販売体制づくり

令和2年度の農畜産物の販売について販売戦略の強化と販売体制づくりに取り組みました。しかしながら、年間を通じて新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた形となり、コロナ禍による業務用農産物の需要の減少に加え、秋冬野菜の豊作基調、米と果実については天候不順と病害虫の発生による品質低下と出荷量の減少も影響し、厳しい販売情勢の中で販売高については計画を下回る結果となりました。



消費拡大のため、花野果広場を行いました



直売所の買い物客

【米・麦】

○全農・米穀卸等と連携し、米・麦の業務用実需者との商談を実施

・米麦の安定取引および実需者との結び付きを強化するため、米卸、実需者等との商談を行いました（延べ31回）。また、販売強化への取り組みとして、「朝日」、「ヒノヒカリ」、「温羅の舞（アケボノとヒノヒカリのブレンド）」のJAオリジナル精米商品を開発し、令和2年11月より直売所および花野果オンライン、郵便局、花野果広場で販売を開始しました（販売実績4,140キ）。

○農業政策ならびに農家経営規模に応じた水田活用米穀取組の推進

・農業政策に沿って水田活用米穀に取り組まれた生産者より契約に基づき集荷を行いました（集荷実績53,063俵 前年対比96%）。今年度も引き続き、米価安定のため全農・米穀卸等との連携による米・麦の業務用実需者との結

【園芸品目】

○産地情報の発信、 ◎ブランド力の強化

・◎ブランドの認知度向上のため、重点取引市場、仲卸等との連携による販売を行いました。

・果実については、桃、ブドウの安定出荷販売にむけて、重点取引市場と連携し、関東、関西市場の果実のギフト需要に合わせて販売単価設定を行う値決め販売に取り組みました。

【桃】（関東・関西市場むけ）
出荷数量14,6ト（前年対比42%）、
販売金額1,483万円（前年対比43%）
【ブドウ】（関東・関西市場むけ）
出荷数量285ト（前年対比108%）、
販売金額5億1,063万円（前年対比100%）

・農産物の付加価値向上のため、鮮度維持装置（冷蔵庫）を活用し、冷蔵シャインマスカットの首都圏



「はなやかオンライン」で販売しているオリジナル精米商品

岡山県産 おいしいお米を 召し上がれ

市場への出荷を行いました。(出荷数量3・3ト、前年対比165%)
 ・野菜については、秋冬野菜の全農むけ業務・加工用の出荷を計画的に行いました。



清水白桃出荷進発式(㊟一宮選果場果樹部会)

【キャベツ】
 764ト(前年対比97%)

【ハクサイ】

1,143ト(前年対比101%)
 ・岡山県ブランドイチゴ「晴母」



千両なす出荷進発式(㊟備南施設茄子部会)

の販路拡大にむけて、計画的に東京市場むけの出荷を行いました(出荷量1,937ト、前年対比224%)。

・農産物の消費宣伝として、7月に一宮選果場果樹部会の「清水白桃」出荷進発式、10月に備南施設茄子部会の「千両なす」出荷進発式を開催し、消費者へ広くPRを行いました。

今年度も引き続き、㊟ブランド力強化のため、産地情報の発信とともに重点取引市場、仲卸等との連携による青果物の有利販売に取り組めます。

○販促活動の強化による新規販売先の開拓

・販促活動については、新型コロナウイルス感染症の影響により、県内外のイベント自粛とともに販促活動、試食宣伝が中止となる中、管内青果物の消費拡大のため「JA岡山花野果広場」を岡山駅の「エキチカひろば」で開催し、桃、ブドウ、イチゴ、野菜等の販売を行いました(3回:8月・12月・3月)。

・花きの産地PR活動として、小中学校の卒業生むけに管内花きの花育活動に取り組みました。

【足守地区小学校】
 コサージュづくりの出前授業
 【長船地区小学校・玉野市内小中学校】
 花束の贈呈

今年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を把握しつつ感染防止対策を十分に講じたうえで、販促活動と試食宣伝等を実施し、㊟ブランドの認知度向上に努めます。

○販売担当者の育成と情報共有

・販売戦略の一環として、園芸販売担当者会議の開催と毎月2回(上期・下期)の産地情報ならびに市場情勢を産地、全農、市場等からの情報の取りまとめ、産地情勢として本所と営農センター間で情報共有を図ることで管内青果物の有利販売につなげました。
 今年度も引き続き、販売担当者の育成にむけて園芸販売担当者会議の開催とともに、産地情勢等の情報共有を図ります。

【直売関係】

○農産物直売所の魅力向上と販売力の強化

・新型コロナウイルス感染症防止のため、はなやか合同産直まつりなどが中止となりましたが、店舗規模に応じたJA岡山合併20周年記念セールやミニセールを開催し、お米、精肉、青果物等の特売を通じて農産物直売所の魅力向上に取り組みました。また、販売力の強化にむけて、インターネット販



岡山県産プレミアムジュースセット



店長オススメ旬の野菜セット

○加工品の開発と販路拡大

・清水白桃、ミカン、レモンなどの下位等級の買い取りを行い、一次加工品として販売することで農産物の付加価値向上に取り組みました(清水白桃9・8ト、ミカン11・5ト、ブドウ2・2ト、レモン5・4ト計28・9ト前年対比130%)。

・新規取り組みとして、委託製造による牛窓産レモンの二次加工を行いました(レモン果汁:1.6ト)。今年度も引き続き、加工原料の確保と外部委託による二次加工品の製造・販売を行うことで、農産物の付加価値向上に取り組めます。

○委託輸送の拡充による農産物直売所の品ぞろえの充実

・毎月発行する広報誌「ぱれっと」において会員募集を行い、出荷会員数を確保するとともに運営体制の見直しにより委託輸送の拡充につなげました。【直売所出荷会員数】延べ5,643名(217名増)【うち委託輸送会員数】360名(99名増)
 ・直売所会員むけにイベントの開催情報や生鮮品の販売情報、品薄傾向にある青果物情報についてメール発信を行うとともに、精算書を送付する際、各店舗の売れ筋青果物ランキング等の情報資料を同封し、各店舗の品ぞろえの充実につなげました。
 今年度も引き続き、出荷会員の確保と委託輸送の拡充に努めるとともに、出荷会員への店舗情報の発信により農産物直売所の品ぞろえの充実につなげます。

予告

ぱれっと11月号では、「営農振興計画」最終年度の取り組み「農地の流動化と労働支援の推進による農地の有効活用」重点実施事項①②を掲載予定です。



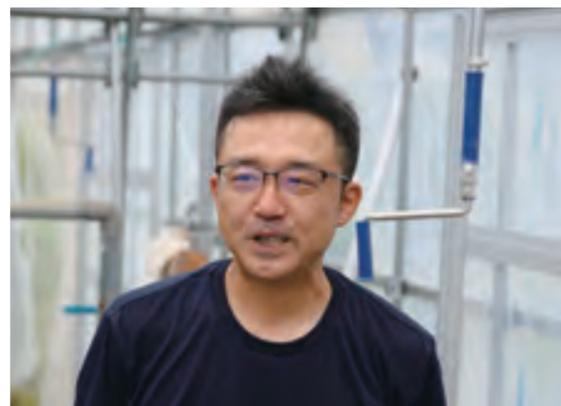
安全・安心な野菜をつくり、日本の食文化を支えたい

田邊 耕治さん

平山地区：有機無農薬野菜農家

「たなべ こうじ」

昭和50年生まれ。高松有機無農薬野菜生産組合みどり会所属。有機無農薬野菜を栽培。妻と息子2人の4人家族。趣味は料理、楽器演奏。座右の銘は「人生見逃しの三振をするな」。



農業について思いを話す田邊さん

8月17日、平山地区の田邊耕治さんにお話を伺いました。
安全・安心の野菜をつくりたい

―就農したきっかけは

生まれ育った環境の中で農家の方と交流を持つ機会も多く、漠然とした憧れを持っていました。自分の性格と、今後の人生設計を考へて農業による独立を選択しました。相談先がある安心感から行政・JAの支援を受け、事業を活用し、2年の研修を経て令和元年に就農しました。

―農業を始めてからは

有機無農薬栽培との出会いは、大森英夫さんのもとで行った就農研修からです。息子たちがトマト嫌いだったので、大森さんのミニトマトを食卓に並べると、取り合いをするほど人気で驚きました。自分でもこんなおいしい野菜を作りたいと思い、栽培を始めました。「おかやま有機無農薬農産物」のため、化学肥料や農薬を一切使っていないため、野菜に付いた土を払い落としたりすぐ食べられるくらいの安心感があるのがウリです。

現在は、26坪のほ場で、品目を切り替えながら約20種を栽培しています。妻の家族が農業の経験があり、手伝ってくれるのでありがたいです。

農業を始めてから、旬の野菜を旬の時期に食べてほしいという思いが芽生え、家族や消費者の方に一番おいしいタイミングで食べてもらいたいのです。

―楽しいことは

手をかけると、品質の高いものに返ってくることが楽しいです。結果が見えるので反省しながら栽培できます。

子どもが野菜をしっかりと食べるようになり、「おいしい」と言ってくれることも励みです。

―苦労することは

土づくりに苦労しています。水はけが悪く、根も張りにくいので、土壌環境をよくするために試行錯誤しています。農業の課題は大森さんや部会の先輩から教えていただいています。人の交流に恵まれており、周りにはお手本だらけなので、見て、聞いて学んでいきたいです。

日本の食文化を支えたい

―今後の抱負は

ほ場を新たに借りて規模を広げ、安定生産を目指します。農業はなくてはならないものなので、部会と協力して仲間を増やしていきたい、日本の食文化を少しでも支えていけたらと思います。フードロス等の食の問題解決に貢献し、循環型農業を目指していきたいです。

聞き手…JA岡山広報担当



ひとつひとつ丁寧に管理します



クウシンサイの収穫作業



わき芽のせん定作業

野菜

よい種球を
早めに確保
しましょう



ニンニクの栽培

ニンニクは中央アジア原産のユリ科の野菜です。ニンニクの生育適温は15℃~20℃で冷涼な気候を好みます。25℃以上になると休眠状態に入ってしまうため、気温が高い時期に植え付けても発芽せず土中で腐ってしまうことがあります。また、植え付け時期が遅すぎると春先に生育期間が不足して球が肥大しないので、ニンニクは9月下旬から10月下旬の適期に植え付けることが上手に育てるポイントです。

種球の準備

種球は、虫害やウイルス病等への罹病の心配のない市販の種球を購入しましょう。また、なるべく大きなりん片を選びます。りん片は大きいものほど大球になります。ニンニクの品種には、暖地系と寒地系があるので地域に適した品種を選びます。

花き



デルフィニウムで庭を豪華に

5~6月の花壇に立派なデルフィニウムが咲くといっぺんに豪華な庭になります。近縁のラークスパイ(千鳥草)もノックポで爽やかなイメージですが、存在感では大きく違います。花言葉は、爽やかな色合いや凛とした佇まいから「清明」、「高貴」、ただしピンクは「気まぐれ」、「移り気」です。

特徴

北半球の温帯高地の原産で、涼しく明るいところが好きな植物です。日本の高温多湿な夏越しが難しく、一年草扱いですが、冷涼地では宿根草になります。

高性種は2メートルほどにもなり、深い青や空色など爽やかな色合いが特徴です。

一本立ちで存在感のあるジャイアント系、矮性のドワーフ系、分枝性のペラドンナ系、シネンシス系などがあります。

種播き準備から育苗

発芽適温は15~20℃、夜温が20℃を越すと発芽率が低下しますから、

ニンニクの種球は、球の中に6~10個程度のりん片が包まれているので、植え付け前にりん片を小分けにして、包んでいる皮は剥がさずにそのままにしておきます。

畑の準備

畑は日当たりがよく肥沃な粘質土が適します。2週間以上前には、堆肥を10平方メートルあたり25kg、苦土セル力等を1.2kg施用し深く耕しておきます。植え付けの1週間前までに野菜いちばん等を10平方メートルあたり1kg、土壌に混和した後、畝幅120cm、高さ10cmの畝を作り、排水の悪い場合は高畝にしましょう。

植え付けと灌水作業

条間30cmの4条植えで、株間12~15cm、種球の芽の出る方を上に向けて深さ5~6cmに植え付けします(資料1)。

ニンニクは通常なら2週間ほどで発芽するので、種球を植え付けた後は発芽するまで乾燥しないようにしっかりと灌水します。

その後も、冬場でも晴天が続く場合は灌水をし、球の成長が盛んになる3月以降は気温が上昇し乾燥気味になるので、晴れた日にはたっぷりと灌水しましょう。

追肥作業

植え付けから冬場にかけての生育は穏やかで、春先になり気温の上昇とともに養分の吸収が活発になるので、追肥は球の肥大が始まる2月ごろに野菜いちばん等を10平方メートルあたり600g程度施します。3月以降に

追肥を行うと、裂球や病気の要因になるので注意しましょう。

分けつ球の除去とつぼみの摘み取り

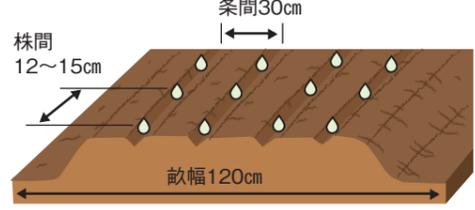
1力所から2本以上発芽する場合は、本葉3~4枚のころ、強い芽を残して他を取り除きます。この場合、残す芽を傷つけないように片手で押さえ、もう一方の手で元から引き裂くように行います(資料2)。

また、多くの品種は4月下旬から5月にかけてとう立ちしてきます。このままにしておくと、養分がつぼみに使われ、りん片の肥大が悪くなるので、順次摘み取ります(資料3)。

防除作業

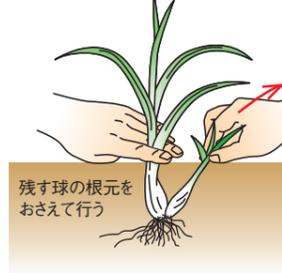
葉の表面にさびのような病斑が出るさび病や、害虫はアブラムシ類等の発生が見られるので、早めに防除しましょう(資料4)。

資料1 ニンニクの植え付け



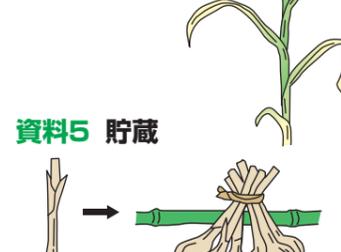
資料2 ニンニクの分けつ球の除去

分球し、芽が2本伸びた株があれば1本を取り除く

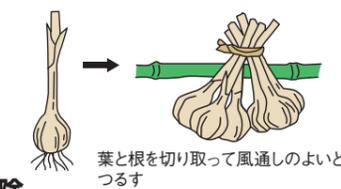


資料3 ニンニクのつぼみの摘み取り

春になり、とう立ちして、葉の先端より長く伸びだしたらつぼみを早めに摘み取る



資料5 貯蔵



資料4 ニンニクの薬剤防除

病害虫名	農薬名	使用薬量/使用時期/使用制限
アブラムシ類・ネギコガ	アディオン乳剤	2000~3000倍/収穫前日まで/2回以内
さび病・葉枯病	ダコニール1000	1000倍/収穫7日前まで/6回以内

●収穫
株全体の1/2~1/3くらいが黄色くなった時が収穫適期。球の肥大状況を調べ、球の底部(尻部)が平らになっていけば収穫できます。早過ぎると貯蔵性が劣り、遅過ぎると裂球の原因になります。晴天で土の乾いた時を見はからって抜き取りましょう。

●貯蔵
収穫した株は、晴天なら畑で2~3日乾燥させ、その後、根を切って日陰の風通しのよい場所で貯蔵します。収穫後に雨に当たると色沢が悪くなり腐敗しやすくなります(資料5)。

9月下旬~10月中旬はちょうどよい時期です。条件にもよりますが、発芽率もあまりよくなく、発芽まで2週間程度かかるので、種を一昼夜流水に浸して播くと揃いと発芽率が改善されます(資料6)。流水浸漬は、水道水をチヨロチヨロ落としておけばよいのですが、一旦流量を調整後もう一度確認しないと止まってしまふことがあります。

200穴セルトレイや、育苗箱などに清潔な育苗培土を入れて播き、暗発芽種子なので5~6程度覆土して充分灌水し、新聞紙などを掛けておきます。発芽まで高温と乾燥は禁物です。ある程度生えたら新聞を取り除き、日に当てます。この間の乾燥にも注意してください。

移植を嫌うので、本葉2枚程度で有機質に富み排水のよい用土でポットにあげ、適宜液肥を施します。

●病害虫対策

・ネキリムシ
雑草が生えていたところにはネキリムシがよく潜んでいます。カルホス微粒剤Fを定植時に土壌混和しておくのとひとまず安心です。登録内容は、花き類、6g/平方メートル、1回。

植え付けた後からは、アクセルベイトを株元散布すると有効です(コガネムシ類の幼虫には効きません)。

登録内容は、花き類、ネキリムシ類、3~6g/平方メートル、生育期、6回まで。

・立枯病
リゾレックス粉剤を土壌混和しておくのと予防効果が期待できます。登録内容は、花き類、立枯病、50g/平方メートル、定植前、1回。

・うどんこ病
春になって気温が上がると発生することがあります。ダコニール1000、トリフミン水和剤などの殺菌剤で予防します。

●その他

ジャイアント系は大きく伸び上がり、支柱を立てて倒伏を防止しましょう。

ラークスパイも低温を好み、種子の発芽特性もデルフィニウムに似

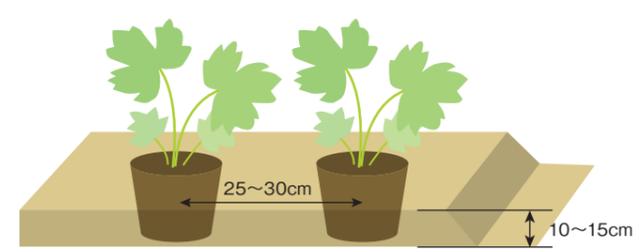
ています。植え付け前の施肥量はかなり控えめに、類似の方法で栽培ができます。穂咲き品種以外にスプレー咲き品種もあり、好みに合わせてご利用下さい。

資料6 種子の流水浸漬



ガーゼなどに種を入れて流水に浸けます。ヒタヒタ水で吸水させても大丈夫ですが、流水は水中に酸素が補給され、より安心!

資料7 植え付け間隔



十分な株間をとり、土地条件によって畝盛りで排水対策を!

果樹

今年の気候で
受けたダメージ
を回復！



営農部指導課
武田 祐一

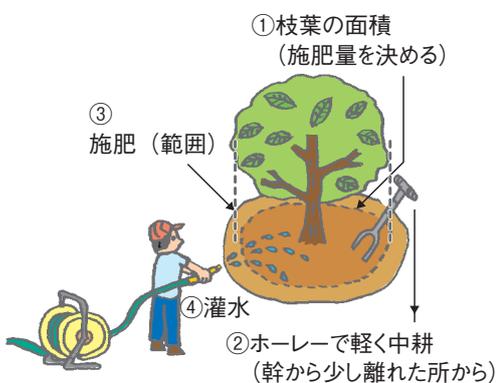
今年の果樹は、梅雨の長雨と梅雨明け後の高温、干ばつ、8月の長雨等の影響で、樹体はかなりのダメージを受けていると思われる。この秋に施肥や灌水など土づくりを徹底して、年内に貯蔵養分の蓄積を促し、来年の初期生育に繋げていきたいと思います。

●果樹の基肥について

基肥には窒素、リン酸、カリの3要素が入った肥料を施し、必要に応じて石灰やマグネシウム、その他微量元素(マンガン、鉄など)を施しましょう。施肥後は軽く土と混和して、灌水を行い、肥料成分と土をよく馴染ませます(資料8)。

果樹品目別の基肥施肥量の目安を参考にして土づくりに活用ください(資料9)。樹勢(葉色や徒長枝の発生数などを考慮する)や今年の収量、土質などを考慮して弱っているような樹は施肥量を1/2割程度加減しましょう。

資料8 施肥の範囲と手順



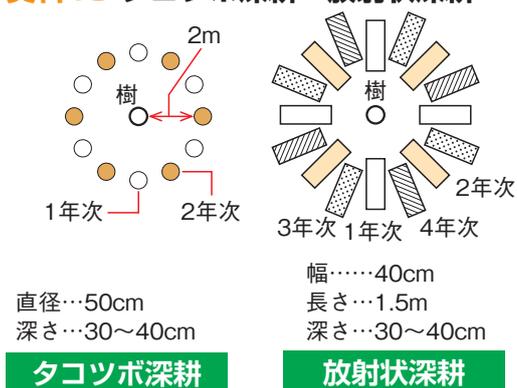
●土づくりの方法
昨年に引き続き、梅雨の長雨・夏場の高温乾燥等で樹体はかなりのダメージを受けていると思います。株元の太い根を断根するとさらに衰弱するので、株元1/2層離れた細根が多いところを土壤改良します。部分深耕や中耕を行うと根を切断することになります。新しい根が発生し樹勢回復を図ることができません。また、固まった土壌を堆肥と一緒に耕すことで通気性、排水性、保水性の改善につながります。部分深耕を極端に行うと根量が一時的に減少し、樹勢が弱る原因となる場合があります。樹冠面積の1/2割程度に留めて行い、数年かけて実施しましょう。タコツボ深耕と放射状深耕の事例を(資料10)に示しておきますので、参考にしてください。

資料9 果樹品目別基肥一覧表

果樹の種類	基 肥		追 肥		窒素成分量(g)		
	時 期 (月)	施用割合 (%)	時 期 (月)	施用割合 (%)	1樹当たり		成 木 (10m当たり)
					1年生	3年生	
桃	10~11	80	8~9中	20	100	200	100~120
ブドウ	10~11	80	収穫後(9)	20	100	300	80~140
梨	11~12	70~80	6, 7, 9	20~30	100	200	180
柿	12	70~80	6下~7上	20~30	150	200	120~170
梅	11~12	80	7	20	100	150	150
スモモ	10~11	80	9	20	100	200	100~120
イチジク	11~12	60	6上, 8上	40	50	80	150
キウイ	10~11	70	3, 6, 9	30	100	350	180
栗	11~12	60	7上, 9下	40	50	75	200
リンゴ	11~12	80	収穫後(10)	20	100	200	180
ピワ	9上	60	2中, 6上	40	50	100	250
ミカン類	3~4上	60	6上, 11上	40	50	100	200

注意してもらいたいことは、深耕した時に土壤改良資材・堆肥と掘土を混和し、乾燥しないうちに埋め戻して灌水することです。そして県南では土壤改良の適期は10月中であり、遅くても11月上旬ごろまでには行いましょう(地温が下がり過ぎると傷口が癒えず、新根が発生しにくいいため)。遅くなり過ぎると新根が発達せず初期生育の低下や、枯れ込みに繋がるため注意が必要です(資料11)。

資料10 タコツボ深耕・放射状深耕



資料11 土づくり時期

断根時期	秋根の発根状況	発根後の秋根の状態(冬)	評価
10月上旬まで	・太い直根が伸長 ・翌春までに枯死 ・遅伸びを誘発		△
10月上旬中旬~ 11月中旬 (地温13℃以上)	・細い秋根の伸長 ・休眠まで働く ・翌春早く発根		◎
12月上旬中旬	・カルス化のみ ・翌春は新根が出る	カルス形成のみ	○
12月中旬以降	・枯れ込み ・初期生育低下	カルス形成なし 枯れ込む	×

米麴甘酒



材料

[できあがり640g]
 米麴(生) ……………200g
 うるち米 …………… 140~180g
 もち米 …………… 20~60g
 水 …………… 400cc
 ※米麴と(うるち米+もち米)は同量にする。
 ※うるち米ともち米を合わせて200gに調整する。

作り方

- ①うるち米ともち米を合わせて洗う。
- ②分量の水を入れて30分おき、普通モードで炊く。
- ③炊きあがったご飯をざっくり混ぜ、粗熱が取れたところへ米麴を入れて混ぜ合わせる。
- ④炊飯器を低めの保温モードに設定しそのまま保温状態(55~60℃)をキープし、時々かき混ぜながら半日から1日置く。
 ※低めの保温モードに設定できない場合、炊飯器のふたを開けた状態で濡れ布巾をかけ(水分や温度を調整するため)、保温状態(50~60℃)をキープする。
- ⑤味見して甘くなったら完成。お好みの濃さに薄めて召し上がれ。

JA岡山女性部監修

OKOME おこめレシピ RECIPE

URL <https://www.ja-okayama.or.jp/>

Aslogram

あぐろ グラム

編集後記

看板を通じて 農業の魅力を紹介

岡山県の真ん中に位置する吉備中央町の「農産物」の王国を紹介します。

同町上田西地区の入口には「百姓王国」と書かれた看板があります。この地区では、各農産物の生産者を「くだもの大臣」「野菜大臣」などさまざまなものづくりの大臣に任命しています。

地区内には大臣の似顔絵付き看板や百姓王国マップがあり、農業体験や王国散策など里山ならではのさまざまな農業の魅力が町内外へPRされています。

編集担当 住吉 沙弥香

